

千 票

The Senpyo

富山県立大学同窓会機関誌
第5号

発行日 2010年10月1日
発行 富山県立大学同窓会 会長 荒木 甫／副会長 高田 満
編集 千瓢編集部 [編集長 池上 効]
住所 〒939-0398 富山県射水市黒河 富山県立大学内
電話 0766-56-7500 FAX. 0766-56-0396
メール senpyokai@pu-toyama.ac.jp
URL <http://senpyokai.pu-toyama.ac.jp/>

富山県立大学開学20周年記念

20人のストーリー

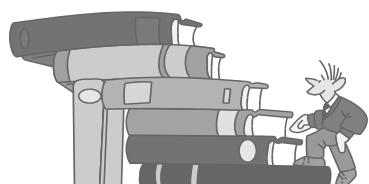
富山県立大学が開学した1990（平成2）年から、今年で20年がたち、開学20周年記念行事が多く開催されました。今回、特集で同窓生20名の方から意見を聞きました。20人のストーリーから、今の大学を考えてください。今回参加していただいたのは、1期生・辻井泰孝さん、3期生・藤井みゆきさん、4期生・岩井学さん、5期生・飯田麻里子さん、7期生・小谷智明さん（写真参加）、8期生・氏家真理子さん、9期生・今井久志さん、10期生・谷口夏美さん、10期生・池田邦博さん（写真参加）、11期生・樋本菜央さん（写真参加）、11期生・川端恵理香さん、12期生・中川清隆さん、14期生・清水翼太さん、14期生・野中亮さん（写真参加）、15期生・久々江康晴さん、18期生・境井千佳子さん、19期生・米山智也さん、20期生・中野翔さん。

この企画では、参加してもらう人の人選等で奥田実先生の助言を頂きました。

大志を抱き入学した。環境の整ったキャンパスでは学業に専念できた。4年生から修士課程では、じっくりとご指導下さる田中先生の研究室にてCFRP（炭素繊維強化プラスチック）という最先端材料に出会った。さらに大学の産みの親である初代藤井学長より推薦を頂いて、大学枠のなかつた三菱重工業に入社でき、そのCFRPでロケットや飛行機の翼を製作。そして、日本で40年ぶりの国産旅客機を2012年に飛ばすべく、今、欧米のパートナー会社と邁進している。いろいろな巡り合わせで、思いがけない道を歩んで来ることができたなあと出張先のシカゴでPCをたたきながら懐古している。



今ここに自分がいるのは、本学において素晴らしい教授陣や研究材料に出会えたおかげだ。深くありがたみを感じている。今後に繋がる旅に胸が躍り、全力を尽くして励みたい。



20年振り返って

機械システム工学科／1994年卒・1期生
辻井 泰孝

廃校直前、廊下に穴を開いた木造小学校から6年後、私は『きときと』の富山県立大学へ1期生として

Index

題字は浦野泰子さんにたのみました。浦野さんは富山県立大谷技術短期大学の応用数学科の1期生です。

- 1~5 《特集》20人のストーリー
- 6~7 富山県立大学開学20周年記念講演会、集まってま～す
- 8~10 研究室の近況案内
- 11~13 探しています

- 14~16 同窓会日誌、この数字をご存知ですか？
- 17 島谷信先生を偲んで、平成21年度同窓会総会、はてなクイズ
- 18 退職しました、大学ニュース
- 19 私の好きなもの、同窓会総会のお知らせ、ゴルフコンペ
- 20 声、編集後記

富山県立大学の創立20周年によせて

機械システム工学科／1996年卒・3期生
藤井 みゆき

富山県立大学の創立20周年、おめでとうございます。このような折りに、原稿執筆依頼をいただき、しかも、「教養教育の奥田先生のご紹介では是非とものお願いです。」と書き添えられており、在学中に大変お世話になった奥田先生のお名前を出されては、ご辞退できないと思い、筆を執らせていただきました。

私が県立大学に入学したのは、開学2年目の1991年です。新しい講義棟の壁や設備などはピカピカで、うっかりキズや汚れをつけないか、ヒヤヒヤしたものでした。月日は流れ、大学時代のこととは、「サークル(合唱団)・コンピュータプログラミング・インターネット・アルバイトに一生懸命打ち込んで充実していた」ことを漠然と覚えているのみですが、自分のやりたいことに思い切り打ち始めた貴重な時期でした。

最後になりましたが、富山県立大学の今後ますますのご発展をお祈り申し上げます。

《近況》

現在、神奈川県内の大学に教員として勤務しております。神奈川県といつても郊外の方なので、田畠が多く残り、山や川などの自然に囲まれて、静かに暮らしております。

アラフォーが考える「最近の学生」

機械システム工学科／1997年卒・4期生
岩井 学

アラフォーになった(ばかりの)私は同年代の企業や大学の人達と最近の若者について話をすることが多くなりました。企業の人は「若手はやる気、計画性がなく、仕事もダメ」と言い、大学の先生は「学生は勉学意欲が低く、研究については何も考えてない」と続きます。つまりは、若者は自発性に乏しい指示待ち人

間ということ。一方、私はというと、若者を別世代と見るようになり、ヤングを自称するのが心配になりました。

さて、「学生の中には興味を持ったことに没頭しているのもいるよ」と私。講義が終われば学生同士で集まって復習をしたり、英語の勉強をしたり、サークルや趣味に熱意を注いだりと。小規模大学の本学だからこそ、学生にも目が届くのだと思います。ただし、情熱を注ぐものを見つけられない学生も多くいることは確かです。

私は、学生と一緒に考え、研究に取り組めば、「若いモンは」と言うことはないのではないかと思います。



ゼミ生とのビール工場見学

《近況》

昨年から釣りを趣味にしています。釣り好きの学生と一緒に、池や海に釣りに行くのを楽しんでいます。



建設コンサルタント・補償コンサルタント
調査・測量・計画・換地・補償・監理

朝日コンサルタンツ株式会社

代表取締役 森 永 晃
(農林土木科 第1回卒)

本 社 〒935-0023 氷見市朝日丘 4-29
TEL(0766)74-0774(代) FAX(0766)74-0894

多木 X 肥料

芝生と肥料と農薬

(株)岡本清右衛門商店

TEL 0766-24-0230
FAX 0766-24-1197



建設・補償コンサルタント
調査 計画 測量 補償 上下水道

株式会社 雄 川

代表取締役 雄川 洋一

本社 〒939-1357 富山県砺波市小杉 213 番地
TEL 0763-33-5628 FAX 0763-33-2895
小矢部支店・県東部支店・新川支店・南砺支店・高岡支店・射水支店



総合建設コンサルタント
北建コンサル株式会社

測量・調査・設計・補償

代表取締役社長 鷲 北 慎一
本 社 : 〒933-0941
高岡市内免 3 丁目 3-6
TEL:(0766)23-3666(代) FAX:(0766)23-3987
支店/富山・射水・南砺・東部・金沢 営業所/上越

『空船』の覚悟

機械システム工学科／1998年卒・5期生
飯田 麻里子（旧姓：高倉）

私は今、エアコンの開発グループに在籍し、チーフという立場で、商品開発を行っています。仕事をしている上で最近思うのは、一種の覚悟が大切だということ。

開発を任せられた頃は、当然のことながら自信もなく、急にチーフをまかされてもという思いでしたが、どこかで私の中に覚悟ができたのだと思います。逃げられないなど、あきらめたのかもしれません。ただ、その後、今までしんどかったのですが、気持ち的に楽になりました。どうしたら問題が解決できるのか、より良いものにするためには？といった前に進むことに注力して考えることができたためです。そういう時間というのは、不思議と短く感じ、元気を与えてくれます。つい、上司や他人のせいにしてしまいますが、自分の方向性に責任を持てるようにしたいのです。中島みゆき（TOKIO）の『空船』って曲の自分のオールを任せるな～♪ってありますが、深いな～って感じる今日この頃です。



《近況》

就職してから、趣味の温泉へはほぼ毎週行っています。日帰りでドライブがてらあちらこちらをまわるのは、自分でもよく飽きないと思いますが、肌年齢が若いといわれるのはそのおかげと思い、続けたいと思います。

働くママ

電子情報工学科／2001年卒業・8期生
氏家 真理子

システムデザインの仕事をしながら、家事に子育てに追われる日々を送っています。私の大学時代をご存知の方は、あまりの平凡さに笑っちゃうかもしれませんね。

働く主婦は一般的になっていますが、時短勤務を活用しても、大変なものは大変です。開発業なので納期に追われる事が度々ある中、子供の急な発熱で早退することも少なくありません。実際、任された仕事をやりきることができずにくやしい



氏家 真理子さん

思いをしたことが何度もあります。でも、それでも私は仕事を任してくれる上司がいて、やり遂げることができた仕事を褒めてくれる仲間がいて、私はとても恵まれた環境にいるのだと感謝しています。しんどいだけではなく、そこに楽しみや喜びがあるから続けられているのだと思います。富山県立大学出身の方に女性は少ないと思いますが、こうして頑張っている者があるのだと知ることで、同じ境遇の方のモチベーションアップに繋がればと願います。

富山を離れて

機械システム工学科／2002年卒業・9期生
今井 久志

県立大学を卒業して4年目を迎えました。恥ずかしながら、県立大学在学中までは富山を離れての暮らしはしておりませんでしたので、ようやく新しい生活にも慣れてきた感じです。と、県外生活なのですが、共同研究させていただいているのはサンエツ金属株式会社様と富山県の企業というのも何かの縁なのかも知れません。

富山を離れて生活しているからこそ、「富山県」「富山県立大学」に益々敏感になっているのも事実です。新聞での記事、テレビ番組、学会の発表など、富山県立大学や富山県企業、富山のことなら何でも気になってしまいます。自分はまだまだ、教育者としても研究者としても1/4前くらいです。しかしながら、微力でも地元に恩返しできるように頑張っていきたいと考えています。そのためにも、今は十分に精進して、自分を磨いていこうと思います。

最後にこのような機会を与えていただきました編集員の皆様、奥田先生に感謝いたしたいと思います。

社会人6年目になって思うこと。

電子情報工学科／2003年卒・10期生
谷口 夏美（旧姓：浅井）

学生時代は将来やりたい事もなく、なんでも良いので目に見える「ものづくり」に携わりたいと漠然と思っていた。

実際就職するときも、電子情報工学科に属していたので、ハードもソフトもどちらの仕事も出来る今の会社に就職しました。今の会社はタッチパネルの設計・製造・販売を行っている企業です。今はハード設計に携わっていて、主に基板設計を行っております。

主に、FA事業で使用されているタッチパネルなので実際製品が使われているのを目の当たりにすることはなかったのですが、先日導入していただいている回転寿司屋さんが富山に進出してきましたので初めて実際に使用しているお店に行つきました。当たり前のことですが、自分が製作に携わっている製品が実際に使われているのを見たときの感動は一生忘れられません。これからも設計者としてはまだまだひょっこないので一人前になれることを目指して勉強して頑張っていきたいと思っています。



(左写真)製作に携わった回転寿司屋のタッチパネル
(右写真)筆者は右から2人目

出会い

機械システム工学科／2005年卒・12期生
中川 清隆

「学生生活＝旅」と言うぐらい私が学生時代に旅した国は20ヶ国近くになります。私にとっての「旅」とは、単純に「出会い」です。文化、宗教、人種など、その全てが異なる環境で生きる人達と交流を持ち、そして日本に伝わる変換された情報ではなく、そこから自分の五感で得る情報が、私にとっての出会いであり旅でした。

偉そうな事を書きましたが、私はそんなに深く考えて人と接することはできません。純粋に出会いを楽しんでいるだけでした。一日中アンコールワット（カンボジア）で鬼ごっこしたストリートチルドレンの姉妹、パルミラ遺跡（シリア）で出会い夕食までご馳走になった家族、バルセロナで倒れたとき面倒を見てくれたゲストハウスの主人。どの出会いもいい想い出です。

一方日本では、一言でどうしようもない学生でした。そんな私でも中には理解してくれる先生がいて友達がいて。卒業して4年が経ちましたが、どの出会いも今の私を支えてくれています。

《近況》

卒業後、滋賀で働いていましたが、この春から何の知識の無いまま客先に出向となり、現在は愛知県の企業で働いています。



トルコのブルーモスク

成長

電子情報工学科／2007年卒・14期生
清水 奨太

約一年前、新入社員の前で、僕は社会人の目標として『成長』を掲げた。この『成長』は大学時代からの目標である。大学三年生の時、他の誰にも負けないくらい濃密な一年間を過ごした。日々何かに追われ、ただただ夢中だった。しかし、ふと振り返ってみたとき、貴重な経験をしていることに気付き、初めて成長しているという実感が持てた。講義や実験をし、単位を取得しても味わうことがなかった感覚だった。この



(前)7期生 小谷智明、(後左から)14期生 野中亮、
10期生 池田邦博、11期生 榎本菜央、11期生 川端恵理香(筆者)

《近況》

京都在住。パナソニック フォト・ライティング(株)に勤務。2008年に結婚しました。子供はまだいません。

一年間は衝撃的であり、僕にとっての誇りになった。『成長』を掲げてから、約一年。この一年は仕事を覚えることに必死で、一日が、一ヶ月が早く流れていく感覚だった。だが、この感覚が成長を実感するには必要だと僕は知っている。「今」にこだわり「前」だけをみている感覚。この感覚をもう少し続けられるように努力したい。そうすれば、振り返ったとき、今まで以上に成長したという実感を味わえ、僕にとって、新たな誇りになると確信している。

《近況》

地元は長野ですが、大学進学が縁で、現在も富山に住んでいます。仕事は宇宙用航空関連の電子部品の製造・開発に従事し、この業界の厳しさを実感しています。

10年前の自分へ、10年後の自分へ

環境工学科／2008年卒・15期生
久々江 康晴

3月末まで理科支援員として小学校に通っていたこともあります。最近よく小学校の頃の自分を思い出します。

あの頃一番好きだった授業はもちろん理科で、文集に書いた「10年後の自分」という作文では「化学者になって新しい発見をしている」と書いていました。あの頃の化学者のイメージは、漫画でよく見るような「白衣を着てフラスコとかを振っている人」というよくあるものでしたが、10年後の今、大学生になった自分の姿を見てみると、あの頃に思い描いていた通りの姿になっていて、思わず笑えてしまいます。

より専門的な化学を学ぶため、短期大学部から編入学で他大学に進学した現在は、あの頃よりも大きく前に進めているように感じています。ですが、何度も実験失敗を繰り返し、難しいと思いつつも、今の自分の環境に充実感を感じ、実験を楽しいと感じている部分は、まだあの頃と同じなのかもしれない、また笑えてしまいます。

《近況》

短期大学部卒業後、富山大学工学部物質生命システム工学科に編入学し、1年留年しましたが現在無事4年生に上がっています。学力的に編入生という大きなハンデを感じてはいますが、研究室に配属が決まった今は、毎日自分の卒論用の研究を楽しみながら行えています。

4年間で立つ入口

生物工学科／4年・18期生
境井 千佳子

富山県立大学が創立20周年を迎えたことをお祝い申し上げます。

私は生物工学科に在籍する4年生で、茶道部に所属しています。入部したての頃は4年生になれば格好良い茶人になれると思っていましたが、現実は甘くありませんでした。茶道に触れ、学べば学ぶ程、この3年余りで身に着いたのは茶道の「入門」に過ぎないことを

痛感しています。しかし、これは当然のことです。何十年もある人生のうち、たった4年間の部活動で身に着くことなどたかが知れています。大切なのは、茶道部で稽古を積んだことで茶道の世界への「入口」を教えてもらえたことだと思います。

工学の世界は広く深いですが、私たち学生は4年間でその世界の「入口」を教えてもらっているのです。過去20年間の卒業生の先輩方は、本学で学んだ入口から社会へ旅立ち活躍されています。私も先輩方に負けないよう、学生生活を通して生物工学の世界への「入口」にしっかりと立てるよう努力します。

勉強と就職に対する意欲の変化

知能デザイン工学科／3年・19期生
米山 智也

私は、3年生になって勉強の意欲が高くなりました。その原因是、毎週のようにある実験だと思います。そのため、2年生まではアルバイトやその他の娛樂に勤しんでいたのですが、実験レポートの作成により、それに割く時間がほとんどなくなってしまいました。しかし、そんなに苦とは思っていません。実験レポートの作成は大変で面倒ではありますが、実験自体は楽しいです。

また、ここ最近になって自分の就きたい職業について考えるようになりました。高校生のときから何となくではあるが、情報関係特にソフトウェアに携わる職業に就きたいとは思っていましたが、実験でC言語を用いた実験を行ったことや、パターン情報処理工学でMATLABを使用した講義を受けたことで、情報処理の面白さを知り、その意思が固くなっています。初めて将来のなりたい職業を見つけることが出来たので、この職業に就けるように努力したいと思います。

最近思うこと

環境工学科／2年・20期生
中野 翔

僕は、富山県立大学の工学部に属している。実家は石川県で、富山に来てからもう1年と3ヶ月経つ。自分が所属している環境工学科は、平成21年度につくられた新しい学科である。人々、環境工学科は短大部の学科であり、去年から4年制の学科として加わったものである。この学科を選んだのは、単純に自分の学力に見合ったところだという理由以外に、自分が環境の分野に興味があったからである。しかし、自分たちが一期生なので、先がわからず不安である。また、他の学科とは分野が違うので、勉強の相談などが他学科の人と出来ないので余計に不安である。

しかし、今年、環境工にも新入生が入ってきて、自分にも後輩が出来た。だから、自分たちが1年の頃に味わった不安を味わせないように、先輩である自分が頑張って、後輩を支えていこうと思う。また、こう思うことで、自分の勉強にも力が入り、もう一步成長できるといいなと思う。

富山県立大学開学20周年記念講演会

7月3日（土）小杉文化ホール・ラポールで富山県立大学開学20周年記念講演会が開かれた。

石井県知事より「県立大学は、これまでの20年を礎として、今後とも、明日の富山県や日本をリードする有為な人材を育成するとともに、産業界や地域の活性化に貢献し、さらに大きく発展していって欲しい」とあいさつがあり、続いて田中学長より「21世紀のものづくりを先導する人材育成と、それに必要な先端的技術開発研究をさらに進めていきたい」とあいさつがありました。

杉野太加良研究協力会長より「本日の盛会をお祝いするとともに、社会の発展を担う人材の育成や企業との共同研究などを通じ、富山県や地場産業の発展に努力している県立大学に対し、引き続きサポートを続けていきたい」と祝辞を述べられた。

ついで、中尾哲雄氏より「県立大への期待—私の歩み来た道—」と題する講演がおこなわれた。

中尾哲雄氏（富山県立大学客員教授・研究協力会初代会長・富山経済同友会代表幹事）

演題『県立大への期待—私の歩み来た道—』

今こそ大学の出番

大学は冬の時代を迎えたとよくいわれます。しかし私は、これからが本当の大学の時代ではないかと思っています。ヘーゲルの「ミネルヴァの梟は黄昏に飛び立つ」という言葉は、知恵の女神・ミネルヴァの肩に留まっている梟（知恵の象徴）が混迷の世の中に飛び立っていくということで、そのようなときこそ哲学者の出番だと言いたかったのではないかでしょうか。これを現代に置き換えれば、今こそ大学の出番です。

私は今、若者たちが変わったことに社会の大きな転換を感じています。また、生産拠点が東アジアに移る中で恐怖を感じるのは、委託する物が部品から製品の方向に動いていることです。日本の雇用状況が改善しないのはこのためで、解決にはイノベーションが不可欠です。また、環境問題を解決するためにもイノベーションが不可欠で、そこに大学の大きな役割があるのではないかと考えています。

さらに、今は新しくできる会社よりも廃業する会社の方が多いという状態なので、もっと起業に力を入れる必要があります。私は十数年前に、日本の次世代を担う起業家やベンチャー企業を応援しようと、日本ベンチャーキャピタルという会社をつくりました。ここでは、民間からお金をを集め、大学の研究で事業化できるようなものに投資をしたり、大学OBの皆さんのが起業しようとするときにその資金を使っていただこうということで、既に関西の大学では活用していただいています。純粋な研究ももちろん大事ですが、何かしら起業に発展していかないかということで、この点でも県立大学には大きく期待しています。

キーワードは「際」

1964年に17人で設立した富山計算センターは、「コンピュータ・ユーティリティ」を理念としていました。ここでは水や電気のように、いつでも、どこでも、誰もがコンピュータの恩恵を受けられる社会の構築を目指して、通信やネットワークを早くから意識していました。これは当時、夢物語のように思われていましたが、現在は海外にもネットワークを広げ、従業員は2万人になって、年間160億円の利益を上げています。

45年間ずっと経営に携わる中で、私がキーワードとしてきたのは「際」です。大学では昔から学際化といわれてきましたが、国と国の垣根をなくす「国際化」、さらには地域と地域の関係を強めていく「地域際化」、世代を超えて付き合っていくという「世代際化」、さらには大学の研究とも関係する「業際化」をもっと進めていかなくてはなりません。

そのときに必要になるのは創造力です。教育界では詰め込み教育をやめて創造力を養えとよく言われていますが、私はからっぽの頭では創造などできるわけがないと思っています。辞書には創造とは新しいことを考え出すことだと書いてあるのですが、われわれにできる創造とは今あるものを組み合わせていくことであって、そのためにはたくさんのこととを知る必要があるのです。

組み合わせて創造していくということでは、自社の技術だけでは限度があります。当社ではニコンのレンズ技術とインテックのシステム技術を合わせて医療器械をつくったり、東京大学でのゲノム研究にインテックのコンピュータ解析技術を応用するなど、これまで100余りの業界を超えたビジネスをしてきました。今から十数年前には、プラザーの物をつくる技術とインテックの通信技術によって初の通信カラオケを実現し、大きな利益を出しています。参画企業が増えると赤字になってしまいましたが、そこから若い社員の提案で会費制の着メロ配信を始めたところ、あっという間にその赤字が消えました。現在はさらに新しい組み合いで第3のサービスを開発しているところです。

このときに大切なのは、技術だけではなく、幅広い人間の関係を維持していくことです。多くの人と真心を持ってお付き合いしていく中から、富山という地方の企業であってもいろいろなところと協力し合ってビジネスを展開できるようになっていますので、技術ももちろん重要ですが、人間関係が一番重要だと思っています。

通信とは信を通すこと

また、別会社ではIPv6など次世代インターネットの基盤技術に関する研究開発を進めています。現在のIPv4ではアドレスの数が43億しかないので、いずれパニックが起こるということで、われわれはこの研究に10年前から取り組んできました。IPv6になれば、世界中の人が1人5800兆個のアドレスを持つことになります。要するにアドレスが無限大になるわけで、これを家電製品や自動車に付けていけば、製品の磨耗状態や事故にあったときの状態がつかめるのではないかと考えています。このようなことも、当社だけでは実現できませんので、いろいろな企業と連携しながら進

めています。

インターネットドメインについて、「.jp」ではなく、「.日本」のように漢字のドメイン導入に向けて準備が進んでいます。これが実現すれば、地域の観光戦略などにも大変大きな意味を持ちますし、高齢者のインターネット利用促進にもつながるのではないかと考えています。

このように、技術と通信を合わせることによってさまざまな可能性が出てくるのですが、一方でその悪い面も出てきていますので、「通信とは信を通わすことである」ということを忘れてはいけません。大学の研究機関においても、熱意があればどんなことでも研究していいというわけではなく、倫理的な規範が必要になってきます。

その意味で、最近私が気になっているのは「Dungeon」です。アルバイトをしてもうまくいかない、就職もないというような、自分の今の人格に満足できない若者たちが、仮想世界の中で別の人格を形成してさまざまなやりとりをしているのですが、その中で、どちらが本当の自分か分からなくなったり、二重人格になったり、ゲームと同じように人生もりセットできると本気で考えているような若い人が出てきました。これは大きな問題だと思います。

夢は人を輝かせ、希望は人を大きくする

これまでの経験から、他社に差をつけて地域企業から全国的な企業になり、雇用を拡大して法人税を払うことでも社会に貢献していくような企業に成長していくためには、「際」が大事だと確信しています。ですから、若い人には基礎的な技術をどんどん勉強して、人間関係をたくさん構築していただきたいと思っています。大学も、地域の経済界ばかりでなく、広く日本の産業と何らかの結び付きを作ってイノベーションを進め

ていかなければ、日本はもはややっていけないところまで来ています。その意味では、最近の日本の若者は大変あっさりしていますが、アジアの頑張っている若者たちのように、粘っこく、しつこくなっていたいと思います。

最後に言っておきたいのは、やはり一番大切な倫理(Ethics)の問題です。富山の壳葉が300年以上続いているのは、壳葉人心得の条に書いてある倫理がずっと守られて、多くの信頼を得てきたからです。また、これからは環境問題やエネルギー問題、さらには教育の問題が重要になってきます。これらは Environment、Energy、Education ということで、それに Economy を加えて富山経済同友会では「5つのE」と言っているのですが、県立大学でもこれを教養教育の中で十分取り上げていただきたいと思います。

不況はまだ終わっていないが、デューク・エリントンが言っているように、太陽はいつも雲の向こうに輝いています。先日、これまでやってきた新しいビジネスを振り返ってみたところ、8割近くが失敗していました。しかし、残り2割強の成功でその失敗の損失を補って余りあるからこそ、今日の姿があるわけです。また、失敗したビジネスの大半は好況のときに始めたもので、成功した2割は苦境の中で始めたものでした。ですから、今はチャンスなのです。個人にも企業にもいろいろなサイクルがあって、幸せなときもあれば、落ち込むときもありますが、実は落ち込んだときにこそチャンスがあることを確信してください。

夢は人間を輝かせ、希望は人を大きくします。私もまだ夢を持っていて、この県立大学の中からビジネスを芽生えさせることができたらどんなに幸せかと思っています。大好きな県立大学がこれからもますます栄えていかれますことを祈念いたしまして、私の話を終わりります。

集まつでま～す!!

先生方と技術短大農業科 1973年卒業生合同の集い

荒木 龍憲

♪♪♪あれは、3年前？(ちあきなおみ?)

今度、同窓会をする時はお世話になった先生方と一緒に泊まりでゆっくりと語り合う同窓会にしようと決め、次回の幹事を引き受け、延び延びになっていた同窓会を8月6日(金) クレハハイツで漸く行う事が出来ました。正直、出欠の返事が期日まで無く、電話連絡をし、13名の出席で行いました。

初めに亡くなられた先生、そして6名もの早くも亡くなった同窓生のご冥福を願い、1分間の黙祷を行い、担任して頂いた小林先生に御挨拶と開会の乾杯をしていただき宴を始めました。飲みながら先生方そして同窓生の3分間の現状スピーチを聞き、手を上げての質問等が次々と出され、和気藹々のままアップという間に時間が過ぎ、部屋に戻って全員参加しての二次会。先生方を囲んで大学時代の事、もうすぐ還暦の事、今後の生き方等々。各々の考え、それに対する色々の考え方・思い・・・話は尽きません。

次回は還暦の年に行う事と、幹事を決めて『次回ま

で、皆元気に頑張ろう。』と・・・。又、今まで以上に各々が連絡し合おうと携帯番号を交換しあって、別れを惜しみながら、宿を後にしました。

同窓会の世話をするのは大変でしたが、短い時間だったけれども皆が今迄に見た事の無いような楽しい表情をして語り歌い飲む姿を見た時、同窓会を行って大変良かったと心より思いました。正直、同窓生は減ることがあっても増えることはありません。大切な同窓生といつまでも元気で少しでも長く交流を続けたいと思います。今回都合がつかなくて出席出来なかった同窓生にも次回はぜひ出席してもらいたいとの思いを込めて集合写真を送りました。



研究室の近況案内

エコデザイン工学講座

教授 森 孝男

当研究室は、機械システム工学科エコデザイン工学講座に所属し、現在、教授1名、社会人博士1名、修士4名、学部生5名の計11名がおります。

平成18年度の学科再編に伴い、LCA工学分野は、新たに設置され、当研究室はLCA（ライフサイクルアセスメント）工学分野の教育・研究を担当しています。平成18度以前は、旧材料力学講座に属していましたこともあり、実際には、LCA工学分野のほかに材料力学分野の研究も継続しています。

LCA工学と言っても、LCA工学の専門家を養成するのではなく、ライフサイクル思考のできる機械技術者を養成するため、その教育を実施しています。例えば、学部3年生の講義「LCA工学演習」では、ある部品の強度を変えずに材料を鋼からアルミに替えると環境負荷がどう変わるか、LCAソフトを用いて検討しています。この講義には、当研究室の学部生が卒業研究で開発した教材を用いています。ワークステーション室で50名以上の学生が、同時にLCAソフトを用いますが、このような充実したLCAソフト使用環境は、国内の大学でも非常に少ないと思われます。

研究では、これまで実施してきた鉛フリーはんだの強度に関する研究を工業技術センターや地元企業と共に継続しています。また、長期にわたりノウハウを積み上げてきた有限要素法による構造解析技術を利用した製品開発など、企業との共同研究も強力に推進しています。これらの旧材料力学講座から行ってきた研究に加え、最近では、環境性能と構造性能の融合に関する研究を行っています。特に、現在、

機械システム工学科

自動車技術会委員会活動と連携し、機能、コスト、環境を総合的に評価する指標として提案されているTPI（トータルパフォーマンス指標）の自動車への適用に力を入れています。

昨年、当研究室では、初めて修士が海外の国際会議で発表を行いました。今年度も国内の学会で、修士、博士の学生が発表を行います。学生の出した研究成果を自ら発表する機会を今後も多く作っていきたいと思っています。



総合建設コンサルタント



信頼のおける技術で社会に貢献する
株式会社 建成コンサルタント

代表取締役会長 東原 寛
代表取締役社長 瀬川 光太郎

本社 〒933-0014 富山県高岡市野村 284-1
TEL 0766(25)6097 FAX 0766(25)5697

まずは「品質」そして「信頼」さらに「挑戦」。



NIX 株式会社 新日本コンサルタント

代表取締役社長 市森 友明

本社：〒930-0142 富山県富山市吉作910番地の1
TEL 076-436-2111
URL <http://www.shinnihon-cst.co.jp>
支店：金沢 / 事務所：小矢部
営業所：新川・中新川・射水・高岡・南砺・津幡・能登・福井・関西



- | | | |
|--|---------------------------------|-------------------------|
| ●建設コンサルタント
●補償コンサルタント
●システム開発、販売 | ●地上、GPS測量
●3Dレーザー測量
●遭跡調査 | ●地図データ作成
●車載型3次元映像解析 |
|--|---------------------------------|-------------------------|



株式会社

上 智

代表取締役 社長 楠 則夫

本社 砺波市千代 176-1 TEL(0763)33-2085・FAX(0763)33-2558
支店 富山・県東部・南砺・高岡・射水・小矢部・石川・新潟・上越・中四国・
香川・近畿・あわじ・山口・三重・和歌山・大阪・京都・中部・岐阜・東北
出張所 淡路・丸亀・観音寺



水門・橋梁・河川水消雪・ポンプ設備
ミニ発電設備・バイオ関連事業・設計・製作・施工
水機工業株式会社

代表取締役 野村 幸三

〒939-8214 富山市黒崎 172
TEL (076)491-2533
FAX (076)423-3368

知的インターフェース工学講座

教授 平原 達也

<http://auris.pu-toyama.ac.jp/>

平原研究室は、知能デザイン工学科が開設された2006年4月に開設された研究室で、「音」とそれを聴く「聴覚」にかかる様々な研究テーマを扱っています。ただし、「音楽」は楽しむものであり、音楽そのものは研究対象にしていません。

音は空気の振動という物理的な現象です。それと同時に、音は耳から脳に至る聴覚神経系で情報処理され、聴こえという心理的な表象を生み出す生理・心理的な現象でもあります。音の物理的側面はすでに定式化されていますが、音を聴く脳の仕組みは未だにペールに隠されたままの部分が多く、音を操る技術には改善の余地が残されています。脳の巧みな聴覚情報処理の仕組みを垣間見つつ音を操る新しい技術や道具を創る。このような相補的なプロセスを通じて、人間の聴覚機能を違和感なく拡張したり、コンピュータの聴覚機能を向上させたりする新しい情報通信技術を創り出すのが狙いです。

「世界に通用する新しく面白い研究を！」が研究室の基本方針です。学部生には卒論でも世界初のテーマにチャレンジしてもらい、大学院生には国内外の学会で論文発表をしてもらっています。また、平原が客員教授を務めている東北大学電気通信研究所のライバル研究室など外部研究機関との交流も盛んに行っています。おかげさまで、これまでに、研究室メンバーは電子情報通信学会と日本音響学会から学生優秀発表賞などを5

知能デザイン工学科

件もいただいています。

今年度の研究室メンバーは、学部生5名と大学院生5名(修士4名、博士1名)です。彼らとともに取り組んでいる研究テーマは、頭部の動きを考慮することで立体音像の再生を容易にする動的バイノーラル音の再生技術と、高速に頭部の周りの音響伝達関数を計測する技術と、耳には聴こえないほどの小さな声や体の内部で鳴っているさまざまな音を検出する体導音センサ技術です。これらに限らず、「音」や「聴覚」でお困りのことがあればお問い合わせください。なお、医師ではないので治療はできません。悪しからず。

本研究室の詳細についてはホームページ
<http://auris.pu-toyama.ac.jp/>をご覧ください。



通信ネットワーク工学講座

教授／松田 敏弘 准教授／岩田 栄之
<http://www.pu-toyama.ac.jp/ME/netsuriki/>

私たちの研究室では、博士前期課程の大学院生5名と卒業研究生6名が所属し、情報システムを支える半導体集積回路(LSI)に関する研究を行っています。

半導体集積回路(LSI)は、微細加工技術の進歩によって、ナノメートル(nm：百万分の一ミリメートル)の時代になっていますが、多くの新たな課題も生じています。当研究室では、半導体集積回路(LSI)のさらなる微細化と多機能化に向けて、次のような研究に取り組んでいます。

①半導体材料・素子(デバイス)に関する研究：LSIの基本トランジスタであるMOSFETの特性の新しい評価・解析技術の開発、また、LSIと共存可能なシリコン系材料による発光デバイスの研究を行っています。②高精度アナログLSI回路に関する研究：微細化に対応したアナログLSI回路技術の開発と、センサシステム等の分野への展開を図っています。③半導体デバイスのシミュレーション：半導体デバイス内部の物理現象の解明のため、とくに、量子力学を考慮したナノ領域半導体デバイスを中心に研究しています。

当研究室では、研究を通じて「自分で考え、自分で行動する」ことを大きな目標にしています。技術者・研究者として成長していくために必要な能力ですので、自分で工夫したり失敗したりしながら、しっかり身に付けてもらいたいと考えています。また、自分の研究の状況をレポートや口頭できちんと相手に伝えること、相手の意見をよく聞き理解できることも重要ですので、

情報システム工学科

毎週の輪講や打ち合わせも大切な機会として取り組んでいます。

ところで、当研究室には、「やる気」を持って研究するという気持ちをこめて「やる木」と名付けた観葉植物があります。開学時の大曾根教授の時代から引き継いできたもので、今では写真のように天井近くまで伸びています。水やりを忘れて枯れそうになったことも何度かありましたが、今は危機を乗り越えて元気に研究室のみんなを見守ってくれています。これからも、「やる気(木)」が潤(枯)れることのないよう、全員で頑張っていきます。



「やる木」一緒に
前列の右から2人目が松田敏弘先生 3列目左端が岩田栄之先生

環境デザイン工学

教授／高橋剛一郎

私たちの講座では自然生態系と調和した環境の創造・保全に向けた土木関連技術等に関する研究しています。私のほかには、能登勇二准教授（研究テーマ：積雪地域における河川の、気候変動による水環境の変化など）と伊藤始准教授（研究テーマ：橋梁やトンネルなどのコンクリート構造物を長期間にわたり安全かつ快適に利用するための技術開発）です。ここでは、私の研究を中心紹介します。

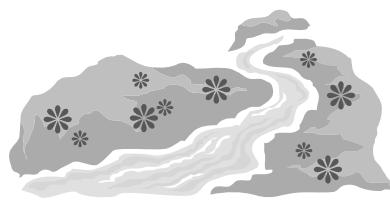
河川における防災工事は水の流れや河川の地形を大きく変えます。土砂災害や洪水災害を防ぐために重要な工事ですが、他方で河川の自然性を大きく損なってきました。その結果、豊かな自然は変貌し、われわれの生存の基礎となる自然の恵みは大幅に貧しくなってきました。一例をあげれば富山名産のますの寿司の原料であるサクラマスの神通川での資源量は極小になってしましました。このような問題を解決するため、安全でかつ自然の恵みを十分にもたらしてくれる河川を目指す、これが私の研究の基本です。

まず、河川環境を土砂の動き、地形の形成、水流の状態などという物理的な面から捉える研究があります。

環境工学科

例えば、瀬や淵がどのように形成されるのか、流路形状の特徴やその成因、地表だけでなく表層地下に存在する地下水と地表の流路との関係などがテーマです。次に、これらが生物の生息環境としてどのように機能しているかということも重要な課題です。

以上は、渓流や河川の環境の仕組みがどのようにあるかを解明する取り組みですが、これらをもとに環境に対する悪影響の少ない防災工事のあり方を検討する実際的な研究も重要です。具体的なテーマとしては、瀬と淵を残すための河道の設計や管理はどうあるべきか、湧水とそれに続く細流を活かすことのできる工種工法の検討などです。あるいは、魚道（ダムや堰に設置する魚のための通路）技術の改良や魚道が不要なダムに代わる構造物の開発などがあります。これ以外にも森林を含めて、広い意味での流域保全もテーマの一部になります。



植物機能工学講座

教授／加藤 康夫 准教授／荻田 信二郎 助教／野村 泰治
<http://www.pu-toyama.ac.jp/BR/kato/>

我々の研究室は、生物工学科棟一階に位置しており、構成メンバーは、教員3名と大学院生（博士課程、修士課程）、学部生（4年、3年）からなっています。講座が出来てまだ5年目の若い研究室で、教員の平均年齢も40歳ですので、世界の先端を目指すべく構成員全員が実験台に座って日夜実験に励んでいます。

当研究室は、植物組織培養と遺伝子組換え技術による植物機能改変、植物特有の代謝機能解明と応用、さらには植物バイオマスの利用研究を行っています。植物は他の生物とは異なり、光合成や窒素同化、二次代謝産物生産といった特殊な代謝能力や分化全能性を有しています。我々はこの植物特有の機能に着目し、富山の地域性と、我々の所属する学科の特性、並びに教員の専門性を生かして以下のような研究を行っています。

- ・チューリップにおける内在性抗菌物質の生合成経路と生理学的意義の解明、病害菌の感染と抵抗性への関与、医農薬やバイオプラスチック原料など新規機能性物質としての応用。
- ・タケのクローニング増殖や生理学・分子生物学的アプローチによる機能解明、タケ特有の代謝機能を活用した有用物質生産、組織培養体を用いたタケの木化メカニズム

生物工学科

ムの解明。

- ・クレソンの高い生長や環境適応能力を利用した水中の富栄養化物質や環境ホルモン等の効率的な分解除去、有用物質・タンパク質の高生産系の構築。
- ・富山湾の海洋深層水の低温特性を活かした加工食品への利用を目的とするコンブの栽培と利用、機能性食品への応用を目指した細胞融合による育種、海藻・海草類からのバイオ燃料生産。
- ・同時糖化発酵システムによる稻わらからのバイオエタノール生産、非食用の燃料作物であるナンヨウアブラギリの日本国内での育成とバイオディーゼル原料への利用研究。

これからも皆と一緒に泣いたり笑ったりしながら、人類および地球の役に立つような植物機能の開発研究を進めてゆこうと思っています。



研究室メンバーの集合写真



探しています

住所をお知らせ下さい。(会員住所不明者の一覧です。)

安 達 真 澄	(技 1 機械)	柳 浜 雄	一 (技 28 機械)
池 上 忍	(技 1 機械)	大 場 信 雄	(技 2 農機)
野 崎 健	(技 1 機械)	吉 野 信 徹	(技 2 農機)
藤 笹 義 明	(技 1 機械)	竹 田 陸 之	(技 3 農機)
井 岡 正 保	(技 2 機械)	竹 須 仁 郎	(技 3 農機)
田 中 国 男	(技 2 機械)	鼻 田 茂 行	(技 4 農機)
中 島 知 久 平	(技 2 機械)	野 田 弘 行	(技 7 農機)
川 波 俊 夫	(技 3 機械)	田 中 正 和	(技 7 農機)
神 吉 兼 成	(技 3 機械)	松 田 彦 茂	(技 10 農機)
吉 斎 藤 文	(技 5 機械)	小 田 正 進	(技 13 農機)
藤 山 勝 慎	(技 5 機械)	加 田 信 也	(技 13 農機)
山 久 沢 弘	(技 7 機械)	稻 田 隆	(技 18 農機)
武 内 登	(技 8 機械)	中 手 清 善	(技 19 農機)
和 得 濑	(技 8 機械)	村 岩 順 淳	(技 20 農機)
樺 牧 信	(技 10 機械)	草 角 豊	(技 21 農機)
原 篠 進	(技 12 機械)	大 倉 康 範	(技 22 農機)
原 永 利	(技 12 機械)	垣 松 勝	(技 22 農機)
栗 青 穴 伸	(技 14 機械)	太 井 康	(技 23 農機)
田 原 田 正	(技 15 機械)	谷 田 豊	(技 23 農機)
飯 野 艮	(技 16 機械)	山 折 康 明	(技 24 農機)
西 保 逸	(技 16 機械)	山 嘉 俊	(技 24 農機)
田 良 雄	(技 17 機械)	藤 深 誠	(技 24 農機)
島 田 正	(技 17 機械)	川 齐 利 春	(技 25 農機)
堤 田 雄	(技 17 機械)	谷 雄 一 郎	(技 27 農機)
国 谷 春	(技 17 機械)	山 博	(技 27 農機)
田 中 雄	(技 18 機械)	岡 口 博	(技 28 農機)
澤 渡 仁	(技 19 機械)	本 田 琦	(技 28 農機)
柳 鈴 孝	(技 20 機械)	村 貴 典	(技 28 農機)
釣 中 仁	(技 21 機械)	田 貴 敬	(技 28 農機)
中 井 一	(技 22 機械)	坂 陸 子	(技 28 農機)
市 高 仁	(技 24 機械)	宮 幸 典	(技 2 農機)
高 今 剛	(技 24 機械)	江 時 典	(技 3 農機)
清 敏 宣	(技 25 機械)	堀 律 子	(技 4 農機)
高 健 宣	(技 26 機械)	竹 清 奈	(技 4 農機)
森 雅 守	(技 27 機械)	水 吉 田	(技 5 農機)
米 雄 守	(技 27 機械)	藤 守	(技 5 農機)
大 雄 守	(技 27 機械)	安 藤 守	(技 6 農機)
角 健 一	(技 27 機械)	森 順	(技 6 農機)
道 健 一	(技 27 機械)	須 裕 美	(技 6 農機)
村 雅 亮	(技 27 機械)	齊 生 章	(技 6 農機)
宇 裕 雄	(技 28 機械)	藤 正 章	(技 6 農機)
米 将 義	(技 28 機械)	生 地 正	(技 6 農機)
大 道 將	(技 28 機械)	地 宇 裕	(技 7 農機)
角 道 宇	(技 28 機械)	野 順	(技 8 農機)

瀬 成	(技 8 応数)	代 よしの	(技 9 応数)
宮 崎 富	(技 9 応数)	子 恵 健	(技 10 応数)
田 島 飯	(技 10 応数)	高 健 弘	(技 10 応数)
中 浦	(技 10 応数)	鈴 由 紀	(技 10 応数)
小 久 米	(技 10 応数)	典 子	(技 10 応数)
幅 武	(技 11 応数)	子 恵 康	(技 14 応数)
山 内	(技 14 応数)	芳 明	(技 15 応数)
荒 井	(技 16 応数)	直 美	(技 16 応数)
吉 村	(技 16 応数)	智 真理	(技 17 応数)
泉 大	(技 17 応数)	志 稔	(技 17 応数)
石 口	(技 17 応数)	千 香 子	(技 18 応数)
常 常	(技 18 応数)	慶 子	(技 18 応数)
熊 熊	(技 18 応数)	潤 吉	(技 18 応数)
広 田 不	(技 18 応数)	田 美 好	(技 18 応数)
田 破	(技 18 応数)	朗 破	(技 18 応数)
日 吾	(技 18 応数)	ゆ り こ	(技 18 応数)
磯 植	(技 19 応数)	朱 葉	(技 20 応数)
植 田	(技 20 応数)	若 千 令	(技 20 応数)
田 魚	(技 20 応数)	秋 子	(技 21 応数)
山 桜	(技 21 応数)	千 知	(技 21 応数)
魚 松	(技 21 応数)	令 寿 左	(技 21 応数)
桜 小	(技 21 応数)	真 千	(技 21 応数)
松 寺	(技 21 応数)	寺 知	(技 21 応数)
柳 柳	(技 22 応数)	瀬 香	(技 21 応数)
松 能	(技 22 応数)	瀬 奈	(技 22 応数)
柳 能	(技 22 応数)	嶋 知	(技 22 応数)
松 能	(技 22 応数)	嶋 春	(技 22 応数)
松 能	(技 24 応数)	嶋 澄	(技 24 応数)
柳 能	(技 25 応数)	嶋 爰	(技 25 応数)
松 能	(技 25 応数)	嶋 仁	(技 25 応数)
柳 能	(技 25 応数)	嶋 大 弘	(技 25 応数)
松 小	(技 25 応数)	嶋 敏	(技 26 応数)
柳 小	(技 25 応数)	嶋 枝	(技 26 応数)
松 大	(技 25 応数)	嶋 健 明	(技 26 応数)
柳 大	(技 25 応数)	嶋 口 千	(技 26 応数)
松 大	(技 25 応数)	嶋 千 路	(技 26 応数)
柳 萬	(技 25 応数)	嶋 弘 知	(技 26 応数)
松 萬	(技 26 応数)	嶋 宏	(技 27 応数)
柳 萬	(技 26 応数)	嶋 淳	(技 27 応数)
松 三	(技 27 応数)	嶋 茂 元	(技 27 応数)
古 三	(技 27 応数)	嶋 正 則	(技 27 応数)
岡 三	(技 28 応数)	嶋 麻 記	(技 28 応数)
渋 三	(技 28 応数)	嶋 徹	(技 28 応数)
加 三	(技 28 応数)	嶋 綾	(技 28 応数)
棚 三	(技 28 応数)	嶋 豊	(技 28 応数)
成 三	(技 28 応数)	嶋 早 苗	(技 28 応数)
大 二	(技 1 応数)	嶋 大 角	(技 1 応数)
長 二	(技 1 応数)	嶋 晃	(技 1 応数)
大 二	(技 1 応数)	嶋 加 津	(技 1 応数)
長 二	(技 1 応数)	嶋 廣	(技 2 応数)
大 二	(技 1 応数)	嶋 千 浩	(技 3 応数)
長 二	(技 1 応数)	嶋 浩 子	(技 4 応数)
大 二	(技 1 応数)	嶋 美 恵 子	(技 4 応数)
長 二	(技 1 応数)	嶋 広 子	(技 4 応数)
大 二	(技 1 応数)	嶋 丈 志	(技 5 応数)
長 二	(技 1 応数)	嶋 由 美 子	(技 6 応数)
大 二	(技 1 応数)	嶋 充	(技 10 応数)
長 二	(技 1 応数)	嶋 隆	(技 10 応数)
大 二	(技 1 応数)	嶋 充	(技 10 応数)
長 二	(技 1 応数)	嶋 伸	(技 11 応数)
大 二	(技 1 応数)	嶋 美 伸	(技 12 応数)
長 二	(技 1 応数)	嶋 安	(技 13 応数)
大 二	(技 1 応数)	嶋 美 史	(技 14 応数)
長 二	(技 1 応数)	嶋 美 雪	(技 14 応数)
大 二	(技 1 応数)	嶋 晃	(技 14 応数)

千 瓢

小篠	彦	(技 16 草農)	西崎	久美子	(短 3 生物)
坂田	弘	(技 16 草農)	伊藤	みづほ	(短 4 生物)
津郷	昌	(技 17 草農)	清水	貴絵	(短 4 生物)
本	信	(技 17 草農)	田中	陽子	(短 4 生物)
小花	明	(技 17 草農)	櫛田	理恵子	(短 5 生物)
北堀	浩	(技 18 農学)	坂田	さと子	(短 5 生物)
吉	勝	(技 19 農学)	柴	雅惠	(短 5 生物)
鎌仲	年	(技 20 農学)	鈴木	愛	(短 5 生物)
賀藤	一	(技 20 農学)	野村	保江	(短 5 生物)
新名	由紀	(技 21 農学)	原	まどか	(短 5 生物)
多賀	淑	(技 22 農学)	福井	昌代	(短 5 生物)
近賀	健	(技 22 農学)	山田	美智子	(短 5 生物)
新輝	彦	(技 22 農学)	井上	美香	(短 6 生物)
岡満	夫	(技 23 農学)	田原	寛子	(短 6 生物)
清史	美枝	(技 24 農学)	水口	寿恵	(短 6 生物)
館哲	也	(技 24 農学)	松村	智子	(短 6 生物)
杉英	俊	(技 25 農学)	藤山	稔之	(短 6 生物)
西尾	俊	(技 25 農学)	志津野	雅美	(短 6 生物)
上保	宏	(技 26 農学)	谷口	久美子	(短 7 生物)
右幸	平	(技 26 農学)	村尾	るみこ	(短 7 生物)
若島	里博	(技 26 農学)	伊藤	由美子	(短 9 生物)
横島	幸	(技 26 農学)	河内	巧	(短 9 生物)
増安	百	(技 26 農学)	長廻	志貴子	(短 9 生物)
曾会	正	(技 27 農学)	別島	奈美	(短 9 生物)
川坂	幸	(技 27 農学)	本多	陽子	(短 9 生物)
坂蛇	稔	(技 3 農土)	日下	泰昌	(短 10 生物)
矢池	均	(技 3 農土)	林千	裕	(短 10 生物)
岡水	二	(技 5 農土)	森美	穂	(短 11 生物)
金坂	正	(技 6 農土)	内沢	倫和	(短 12 生物)
増山	温	(技 8 農土)	神谷	敏廣	(短 12 生物)
安藤	明	(技 8 農土)	清水	織沙	(短 12 生物)
曾村	子	(技 8 農土)	武田	舞	(短 12 生物)
川坂	由起	(技 8 農土)	松山	明子	(短 12 生物)
蛇池	司	(技 9 農土)	吉田	涼	(短 12 生物)
岡田	克安	(技 9 農土)	金子	実	(短 13 生物)
水金	貫	(技 10 農土)	木藤	修子	(短 13 生物)
坂松	人	(技 12 農土)	宮脇	知絵子	(短 13 生物)
村黒	雄	(技 12 農土)	林口	健造	(短 1 土木)
中北	志	(技 12 農土)	樋村	昭	(短 1 土木)
菅長	久	(技 12 農土)	北桜	孝和	(短 2 土木)
赤西	久	(技 13 農土)	谷井	辰生	(短 2 土木)
川上	治	(技 14 農土)	梨木	和枝	(短 2 土木)
荒尾	研	(技 14 農土)	野澤	裕	(短 2 土木)
後藤	貞	(技 14 農土)	原村	洋	(短 5 土木)
貞宮	秀	(技 17 農土)	野村	勝	(短 5 土木)
坂上	修	(技 19 農土)	藤井	竜雄	(短 5 土木)
川上	浩	(技 20 農土)	北岡	紀香	(短 6 土木)
川上	史	(技 20 農土)	佐々木	竜也	(短 6 土木)
荒尾	由紀子	(短 1 生物)	花島	恵津子	(短 7 土木)
後藤	さおり	(短 1 生物)	中島	英一	(短 7 土木)
貞宮	加織	(短 1 生物)	島	真由美	(短 7 土木)
坂上	章	(短 1 生物)	松島	代	(短 8 土木)
湯島	樹	(短 1 生物)	木	要司	(短 8 土木)
高棚	望	(短 2 生物)	竹中	妙子	(短 8 土木)
橋明	京子	(短 2 生物)	由川	雅夫	(短 8 土木)
めぐみ	(短 2 生物)	木下	佳津哉	めぐみ	(短 9 土木)
	谷口	好	美	好	(短 9 土木)

千 瓢

志(大 11 電子)	浩	志(大 11 電子)	志(大 11 電子)
聰樹(大 11 電子)	和	聰樹(大 11 電子)	聰樹(大 11 電子)
司人(大 11 電子)	格	司人(大 11 電子)	司人(大 11 電子)
内晃志(大 11 電子)	啓	内晃志(大 11 電子)	内晃志(大 11 電子)
之和(大 12 電子)	真	之和(大 12 電子)	之和(大 12 電子)
佐正(大 12 電子)	佐	正(大 12 電子)	正(大 12 電子)
江一帆(大 12 電子)	江	江一帆(大 12 電子)	江一帆(大 12 電子)
和成(大 13 電子)	帆	和成(大 13 電子)	和成(大 13 電子)
成大弘郎(大 15 電子)	成	大弘郎(大 15 電子)	大弘郎(大 15 電子)
大弘郎(大 15 電子)	大	大弘郎(大 15 電子)	大弘郎(大 15 電子)
浩登(院後1生物)	浩	浩登(院後1生物)	浩登(院後1生物)
隆黙帆(院前1生物)	隆	黙帆(院前1生物)	黙帆(院前1生物)
帆志(院前2生物)	黙	帆志(院前2生物)	帆志(院前2生物)
志史吾愛郎(院前2生物)	志	志史吾愛郎(院前2生物)	志史吾愛郎(院前2生物)
(院前2生物)	史	(院前2生物)	(院前2生物)
直史吾愛郎(院前3生物)	直	直史吾愛郎(院前3生物)	直史吾愛郎(院前3生物)
智吾愛郎(院前3生物)	智	智吾愛郎(院前3生物)	智吾愛郎(院前3生物)
久美(院前4生物)	久	美(院前4生物)	美(院前4生物)
豊(院前6生物)	豊	豊(院前6生物)	豊(院前6生物)
司(院前11生物)	司	司(院前11生物)	司(院前11生物)
功保介(院論文)	功	功保介(院論文)	功保介(院論文)
介(院論文)	介	介(院論文)	介(院論文)
木原本藤田口藤家川佐留田	木	木原本藤田口藤家川佐留田	木原本藤田口藤家川佐留田
原木茂菅青漆野奈穂子(院論文)	原	原木茂菅青漆野奈穂子(院論文)	原木茂菅青漆野奈穂子(院論文)
※() 内について			
(短6環境)			
学科名			
卒業回			
・・・技術短大			
・・・短期大学部			
技短大			
工学部			
院前・・・大学院前期			
院後・・・大学院後期			

お友達のお名前がありましたら
住所をお知らせ下さい。



同窓会日誌

No.9

この日誌は富山県立大学同窓会の山口郁子事務局長の
日誌です。同窓会のホームページに掲載したものです。

2009年8月6日～2010年8月18日

【2009年】

8月12日（水）

明日からお盆休みにしようと思っているのでプリンターフル回転で使用していたらトラブル多発です。昨日までは結構順調だったのにピンチです。少し熱くなった機械を冷ましながらぼちぼちとした方がよいのかも。

8月17日（月）

ゆっくり休んで今日から仕事開始です。処理しなければならないメールも休みのうちに来ていて午前中はその処理におわれていました。残りの振込用紙の印字も無事済みました。あとは封筒の印刷完了を待つばかりです。

8月18日（火）

学生は夏休み中なので学内がガラーンとしています。駐車場もガラガラです。前期試験も終わり学生は10月の後期授業開始までの長い夏休みですが、追試の学生もいるみたいでちらほら見かけます。

8月24日（月）

先週、封筒が印刷されてきて今日から詰める作業を始めました。みっちり座りどおしで作業をしていると腰や背中が張ってきて大変です。時々体をほぐしながら頑張っています。

9月2日（水）

私事ですが、胃の検診にひっかかって今日は胃カメラを飲んできました。はじめての体験でドキドキ。麻酔はするのですが、口からカメラを入れている間とてもつらくてゲボゲボ言っていました。先週からの疲れもあり午後からぐったりして仕事も休んでしまいました。結果は異状なしでしたからホッとしています。

9月10日（木）

火曜日に編集長から印刷業者に最終稿を入れたので、今週末には完成と聞いていたのに今日「千瓢」第4号が仕上がってきました。予定より早く仕上がってちょっとびっくり！！！正直第4号は出足で少しもたついた感じが否めなくて、どうなるかなあ・・・って思っていたのですがスムーズにいってよかったです。

9月14日（月）

出来上がった「千瓢」第4号をメール便で送る分以外の分けをしました。学内向けや県庁へ持っていく物、大学協力会にも送ってもらうようにしなくては。発行日は10月1日ですから、まだまだ持つては行かないのですが。

9月16日（水）

ちょっと早いのですが、メール便発送業者に連絡をして取りに来もらうようにお願いしました。業者のほうで発送準備をしてもらひ会員の皆様の手元には10月1日に届くように調整してもらいます。また、年会費の郵便振り込みの手続きをしました。今年はシルバーウィークもありばやっとしていると遅くなりそうでしたので早めに手続きに行きました。

9月28日（月）

30日に理事会の出席確認をしました。なかなか皆様忙しく全員とはいきませんが、十数名の方々の出席を確認しました。あとは資料作りです。

10月1日（木）

会員の皆様の所に「千瓢」第4号が今日届いたこと思います。いかがだったでしょうか？今回は封筒の裏面にはがきを作ってご意見などを送れるようにしたのですが、反応が来るかどうか楽しみです。

10月2日（金）

午前中に県庁へ行き、県の出先機関・県庁内の部署へも「千瓢」第4号が届くようにと配布してきました。その帰りに編集長宅へも伺い、次回号への熱き思いもうかがってまいりました。無事仕上がって配布したことであつとしている私にはまだまだ次回号への思いがわきません。さすが編集長！！！！

10月5日（月）

今朝、郵便物を確認に行ったらもう年会費の振込案内が届いていました。皆さんすごいですね・・・。封筒の裏面を利用した葉書も届いていましたよ。ちょっとうれしかったです。

10月9日（金）

昨日は台風18号の影響で大学は休講でした。久しぶりにすごい風で、ゴーゴーとなっていて家にいても結構怖かったです。台風一過で今日は晴天ですが、折れた枝や葉がたくさん構内にたまっていてお掃除の方は大変そうでした。

10月14日（水）

今晚は総会前最後の理事会です。総会資料も何とか完成し確認していただきます。当日の出席者がまだ少なくこれからもうひと押ししていただかないと・・・。

10月16日（金）

会計監査をしてもらいに砺波総合庁舎へ行きました。一年に一回しか行かない所などでちょっとドキドキしながら運転です。無事到着。はんこをもらって一安心しました。

10月23日（金）

いよいよ明日同窓会総会です。お天気はよいみたいですから一安心です。午後から案内看板を取り付けたりしました。ギリギリになっていろいろなことに気づきあわてて準備しているものもありますが、何とかなるでしょう。

10月24日（土）

総会開始は午後3時ですが、学内会場ですから準備もあり午後1時役員集合です。今回は企業と大学が協力して作った商品を展示したり食べたりもでき、少しお土産付きです。出席者は40名ほどで少なかったのですが後半には在校生にも会場に入ってきたとき賑やかな懇親会でした。

10月27日（火）

昨日今日と入金・支払と銀行へ行ったり、片付けに大忙です。午後から少し落ちていたので総会欠席の理事に総会資料を送付することができました。

11月2日（月）

先週生協から請求書が届きました。早速今日銀行へ行って支払いを済ませました。これで総会・懇親会にかかる費用の清算ができたので、総会に関する収支報告書を作成しました。今回は出席者数も少なく会場も狭かったので、昨年に比べるとずいぶん節約できました。

11月4日（水）

富山県功労者に技術短大時代の卒業生の方の名前発見！！！応用数学科1966年卒業の笙曲家川崎雅子さん、農業機械学科1980年卒業の高田法定さんです。お会いしたことはないのですが、うれしいですね。私が気付いたのはこのお二人だけだったのですが、もしかしたら他にもおられるかもしれません。このようなうれしいお知らせは会員の皆さんからドシドシいただきたいものです。

11月9日（月）

戻ってきた「千瓢」の確認作業をしています。会員の住所確認、実家の住所確認を卒業者名簿や電話帳でしているのです。学科別に分けて、今日は工学部の卒業生から始めました。

11月13日（金）

週の初めからしている住所確認ですが、工学部・短大部のときは卒業者名簿にも電話番号が載っていてなんとかスムーズに進みました。しかし、技術短大時代の卒業生の名簿には実家住所は載っていても電話番号がないので、県内在住者が多いのに確認作業がはかどりません。

11月24日（火）

先週末推薦入試があったおかげさまで、今朝事務局へ来たら暖房が入っていました。うれしい！！！

11月30日（月）

住所不明となっていた会員より連絡がありました。友人と集まった時に「千瓢」の不明で載っていたと言われ連絡をくださったようです。機関誌の存在も知らなかつたようなので創刊号から第4号まで4部送りました。友人と集まった時に話題にしてくださっていることがうれしかったですね。どんどん反応があればいいなあ。

12月1日（火）

今日から師走。とても穏やかな冬の一日です。午前中には最後の短大部専攻科生の試験もありました。この専攻科生が卒業すると短大部ももう終わりです。さびしいですね。

12月7日（月）

ネットで自分の名前を検索していたら自分が住所不明となっていることがわかりこちらへ住所の連絡をくださった方がおられました。そんなことがわかるのかとちょっとびっくりしているアナログな私です。すこし勉強しなくては。

12月15日（火）

ついに天気予報に雪だるまマークが出てきました。週末にタイヤ交換した人も多かったことと思います。学内には除雪用のブルドーザーも準備万端、大谷講堂の前にでてきました。あまりブルドーザーが大活躍するような大雪が降らないことを今から祈っています。

12月22日（火）

大雪の峠も越え今日はお天氣ですが、路面が凍っていて結構危険！例年12月にあまり雪が降らなかったので油断していました。こともあります、これが北陸の冬だなーと一人で納得しています。

12月24日（木）

新年から私の前の席にバイトさんが来られます。今まで勝手気ままにしていたのでちょっと緊張します。同窓会の仕事と少し関係があることをしてもらうからですが、お話しのしやすい方ならいいなあ・・・。



みんなの
よい食
プロジェクト
富山県JAグループ



(社)全国上下水道コンサルタント協会会員
株式会社 日水コン

代表取締役社長 野村喜一 北陸事務所長 篠原弘則

〒163-1122 東京都新宿区西新宿6-22-1
TEL.03(5323)6200 FAX.03(5323)6480

〒930-0003 富山県富山市桜町1丁目1番36号 (富山地鉄ビル)
TEL.076(441)8210 FAX.076(441)9650

<http://www.nissuicon.co.jp>
ISO9001 ISO14001

12月28日（月）

本当は先週で仕事納めのつもりだったのですが、ちょっと気になって事務局へ来ました。メールチェックをしようとしたらエラーが出てしまいました。どうしてだろう？？？パソコンのアイコンを見たらケーブルが切れていることになっていました。うーーーーン。困った！！！大学事務局も仕事納めだし、新年に直してもらうこととしよう。

【2010年】

1月4日（月）

新年明けましておめでとうございます。昨年末から新年にかけての大雪。大変な年明けで我が家前の道の除雪も夜中に一回と年明け早々にも行われました。除雪の業者はゆっくり正月どころではなかつたでしょうね。大学構内も今日来たら学生がまだ登校しないこともあり学生駐車場は雪に埋もれていました。

1月19日（火）

10日にはらせん水車、16日には葭田先生の古代パスタの商品化、今日は楠井先生の研究の記事が新聞に載っていました。すばらしい先生方の活躍の記事が新聞に出てるのを見るとうれしくなります。（スクラップもしています。）

1月21日（木）

今大学ではアンケート調査中です。最近の卒業生から順次アンケート葉書が同窓生の手元に届くことだと思います。そのことをHPの案内ページに載せましたので、また見て下さいね。

1月25日（月）

入学願書の受付が開始されました。センター試験も終わり、受験生は希望校を決め目標に向かって頑張っているのですよね。風邪をひかないようにして春には元気な新入生を迎えることを楽しみにしています。

1月28日（木）

20年史の同窓会原稿について池上編集長・奥田先生・荒木会長の三名の間で揺れ動いております。千瓢会目線・工学部目線それぞれの同窓会に対する思いも交錯し、行ったり来たりしています。中立の立場で見なくてはいけない私もどちらももう一んどうなづけまとめるのは難しいですね。

2月1日（月）

もうすぐ立春とはいものの、今日はとても寒い日です。天気予報を見ていると雪マークも出ています。まだまだ北陸は春にはなりませんね。



20周年

答えは、富山県立大学開学20周年です。大学が出来て20年の節目の年に当たり記念の行事が多く執り行われた。ますます発展する大学を見守りたい。

理化学器機・産業機器 計測・試験機器

山本理化
山本文雄

〒930-0887 富山市五福二区5369

TEL: (076)432-1658 FAX: (076)432-1659

E-mail: yamamoto-rk@fancy.ocn.ne.jp

2月12日（金）

来年卒業の学生向けの就職ガイダンスが大谷講堂で行われています。来年の話をすると鬼が笑うとか言っているけど、この不景気の中、今の学生たちは大変ですね。しっかり自分の可能性を見つめて頑張ってほしいものです。

2月15日（月）

冬のオリンピックが始まりました。メダルはまだまだですが、どの競技もすばらしくテレビを見るのが楽しみです。

2月19日（金）

大学で行っているアンケート調査も順調に進んでいるようです。工学部だけのデータを渡していたのですが、短大部のデータもとのことで早速コピーして渡しました。たくさん返信はがきが帰ってきて確認ができるといいですね。

2月22日（月）

大学志願者数が募集者数の6.4倍と新聞発表がありました。昨年よりもやや高い倍率です。前期日程の一般入試は25日ですから、今日は午後から看板などを準備していました。明日にでも取り付けるのでしょうか。

2月25日（木）

大学入試が行われました。とても暖かく、富山は23度をこえ少し汗ばむ陽気でした。インフルエンザで欠席の受験生もいたみたいですが、救済処置もとられるとのことでした。もう一ヶ月ほどで新入生で大学は華やぐでしょうね。

3月8日（月）

先週末、前期日程の合格発表がありました。大学HPでも発表されるので、一昔前みたいに掲示板を見に来る人はあまりいませんが・・・。ドキドキする一瞬ですよね。

3月15日（月）

理事会の案内を先週には送ったのですが、欠席の電話を続けて受けました。なかなか理事のみなさんの日程を調整するのは大変なのですが、たくさんの方々の出席期待しております。

3月24日（水）

今日は卒業式です。雨は降っていないのですが曇り空でとても寒い日です。今朝、大学校門前で写真を撮っている親子を見ましたが、晴れ着の卒業生は晴々と輝いて見えました。217名の同窓生が増え、正会員数は9164名となりました。

3月31日（水）

機関誌「千瓢」の題字も書いていただいた卒業生の浦野康子さんに依頼してありました開学20年史の題字が出来上がっていました。池上編集長の所から頂いてきて、事務局の担当の方にお渡しました。事務局の方は今回の異動で本庁へと聞いていたので心配しておりましたが、スムーズに物事がはこんで良かったです。

4月1日（木）

今日から新年度。事務局の方々も変わり、まだまだはじめません。やっと大谷講堂前の桜も咲き、春らしくなってきました。

4月16日（金）

工学部卒業生からクラス会を開きたいとの連絡です。また、同じ企業グループの親睦会もとのことで該当の方の名簿作成をしました。懐かしいクラスメイトと連絡をとり、楽しいクラス会ができたらいいですよね。此方としてはその時に得た住所の変更などの情報もお知らせしてくださいるようお願いしました。

5月24日（月）

開学20年史の初校を持って、池上編集長の所へ行ってきました。今年発行の「千瓢」第5号の打ち合わせもついでにしました。例年通りの企画に関しては例年通りの作業をこちらで進めさせていただいてはいるのですが、特集はどのようなものにするかはまだ決まっていません、お話をする中で決まってきて早く人選にかかっています。

5月26日（水）

原稿依頼に学内を歩いていたのですが、なかなかお目当ての先生にはお目にかかりずとありえずレターケースに入れてメールでお願いしました。大変失礼なことをしているように思っていたのですが、メールでの了解のお返事をいただいてホッとしています。

5月28日（金）

「千瓢」第5号の特集の依頼をしました。まだお願いしなくてはいけないので、人選が進まず残りは来週になるかなあ・・・。先日研究室紹介の原稿を依頼した生物工学の加藤先生から早速原稿と写真も頂きました。締め切り前に原稿が来るのはうれしいんですね。

6月11日（金）

本年度の総会実行委員会の日程を決めてもらうのに四苦八苦です。なるべく早くに行ってもらうのがベストですが、調整がなかなか難しいみたいです。海外勤務となっていた理事の方が戻ってきたとの嬉しいメールも届きましたのでこれから活躍を期待しています。

6月18日（金）

今晚総会実行委員会です。残念ながら私は私事で県外ですので、若手の方々にお任せしました。

6月22日（火）

実行委員会議事録のメールが届きました。私が思っていたよりもたくさんの方々が出席してくださり活発なご意見があつたようで、順調に進んでいきそうです。開学20年の記念となる同窓会総会ができそうです。

6月30日（水）

今日は「千瓢」の原稿締切日です。なかなか順調にはきません。どうしましょう・・・。

7月2日（金）

先月末の「千瓢」原稿締め切りで、今朝メールをチェックしたら少しは届いていましたがまだまだです。やっぱり催促をしなくては駄目ですね。来週に入ったら連絡しようかな・・・。

7月21日（水）

先日からアンケートに帰ってきたデータ修正をしています。ずっとパソコンとにらめっこなのでずいぶん目が疲れてきました。猛暑の中でエアコンがついているとはいえ大変つらい作業です。

7月26日（月）

データの修正中ですが、短大部は完了しました。専攻科に進学した卒業生もいるので、そちらのデータも修正してやっと完了です。

7月30日（金）

工学部のデータ修正をしているのですが、やはり大学院へ進学している卒業生も多いので確認をしながら修正しているのでなかなかはかどりません。

8月2日（月）

のんびりデータ修正をしていたのですが、このままでいくと「千瓢」発送までに間に合わない気がします。これからは、住所・氏名の訂正の方々だけを修正して後日改めてアンケートの返信結果などを入力していくと思います。

8月6日（金）

とりあえず、住所・氏名の訂正は完了です。

8月11日（水）

振込用紙と会計報告書の印刷をお願いしました。業者もお盆休みがあるので仕上がりはいつごろでしょうか？

8月18日（水）

先週お願いした印刷物が仕上がってきました。これからは振込用紙の印刷開始です。毎日暑くてプリンターが順調に動くでしょうか。心配です。

島谷 信先生を偲んで

元工学部 情報システム工学科 藤本 雅寿

去る八月二十九日、技術短期大学において優秀な卒業生を多数育てられ、大学運営においても本学の発展に多大に貢献された島谷教授が急逝されました。

F先生より入院しておられるとの連絡をいただき、以前と全く変わらず、元気で談笑され、その中で彼は今どうしているかと心配しておられたと伺いました。

早急に見舞に伺って元気な姿をお見せし、早期回復を期待していた矢先の突然の訃報で、驚きと同時に最期にお会いできなかつた無念さと心残りを感じております。



去年の同窓会の懇親会で富山県立大谷技術短期大学機械科の同窓生と歓談中の島谷先生（左から2人目）

先生との出会いは、私が着任した昭和四十一年で、その後退職される平成元年まで公私に亘り的確な指導、時には厳しい叱責をもいただきながら、大学生活と共に過ごしました。そのことが工学部での教育研究、信条形成に大きな糧となりました。

「難局があろうがなかろうが決断したら必ず実行する」が先生のイメージです。当然決断の前に確信に至るまで大変苦慮を練られた過程があったかと思っております。

先生の信条を伺い知る特徴的な一面を思い浮かべれば、当時の学長選挙において、大多数の同僚教員の猛反対、説得にも拘わらず、無謀にも現職学長に対し、対抗馬を擁立して自ら先頭に立って行動されたことでした。学長選を通じて大学の現状と将来について、先生を中心に昼夜を問わず学内外で議論が深まり、勝敗とは別に、結果として先生方の改革意識が進捗したことが、先生の当初よりの思惑であったかと推測しております。このような熱血的な先生は少数になりましたが、同窓生、教職員の皆さんにはいつまでも心の中にとどめていただければ幸甚です。

島谷先生の永年に亘るご指導に感謝し、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

島谷信氏は平成22年8月29日没・享年86歳

平成21年度同窓会総会盛会

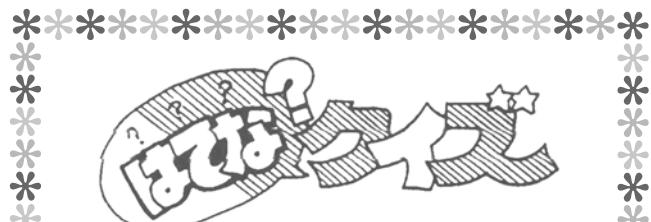
平成21年度の同窓会総会と懇親会が、大学祭の開催中の大学で10月24日（土）開催された。大学祭期間中の開催で大学祭を見学しての参加者の方もおられたようです。今回の特徴は、地元企業との共同研究で製品化された製品を会場に展示し、大学の産学協同研究の成果が展示された。懇親会には田中學長さんにも参加していただき、また懇親会後半から、現役の学生さんの参加もあり同窓生と学生との繋がりを深め、盛り上がった懇親会になりました。会場では先日亡くなられた元機械科の島谷信教授が参加され、大谷技術短期大学の機械科の同窓生とテーブルを囲んで親しく懇談しておられた姿が目に浮かびます。



懇親会で挨拶する荒木同窓会会长



懇親会会場に展示された大学と企業との共同開発された商品



今年（2010年）は富山県立大学開学

何周年でしょうか？

答えは ○○周年

（ヒント・今号の15pを見てください）

◆はがきで〒939-0398富山県射水市黒河 富山県立大学内 千瓢編集部へ答えと住所・氏名を書いて応募ください。正解者10名に図書カード(500円)を進呈！正解者多数の場合は抽選。締め切りは11月15日(当日消印有効)。はがきに「千瓢」の感想も一緒に書いて下さい。メールでの応募もOKです。

「千瓢」第4号クイズ当選者発表!!

<第4号クイズ>

2009年6月18日片山勤先生（元工学部教授）に名誉教授の称号が授与されました。富山県立大学では何人目の名誉教授でしょうか？

答えは、18人目です。

正解者は以下の方々です。（敬称略）

おめでとうございました。

早川俊一・坂田知詠子・江尻康浩（富山市）南眞知子・

高瀬智志（小矢部市）碓井未咲（神奈川県）

退職しました - 40年間を振り返って -

前工学部教授 / 前短期大学部長 安田 郁子

今年の3月に富山県立大学を退職いたしました。昭和45年4月に当時の県立大谷技術短期大学衛生工学科に就職して以来、40年が経ちました。最初に富山県に住むことになった頃、お米と水と魚のおいしいこと、人が親切なことに感激しました。これは今も変わっていません。しかし、地域環境や職場環境は大変わりています。昭和45年頃は車で通勤する教職員はごくわずかで、ほとんどの人が電車かバスに乗って通勤していましたから、今でいうエコな時代でした。また、パスコのあたりから南へずっと小高い山（太閤山）になっており、女池などはまさに森の中の湖といった風情で、一帯が素敵な景観でした。学内も、一部の教員を除くととてもんびりしていて、研究するのが後ろめたい様な気分になる雰囲気でした。今とは隔世の感がします。

そのうち、大谷技術短大は技術短大へ名称が変わり、平成2年には県立大学が新設されました。その時には、衛生工学科は県立大学短期大学部の環境工学科として、農業技術学科とともに発足しました。その後、農業技術学科の農業土木専攻と一緒に環境システム工学科へと変わりましたが、多くの方々のご協力・ご支援を得て、県立大学発足19年後の平成21年4月に四年制の環境工学科を工学部内に新設することができました。卒業生を送り出し環境の技

術・知識を社会に還元する上で、四年制化は非常に大きな推進力になります。いわば、今後に向けての土台ができたことであり、環境システム工学分野の教育・研究の将来を考えると何より喜ばしいことです。



一方で、22年3月、無事に短大部の環境システム工学科を終了できました。短期大学の名称がなくなることには一抹の寂しさがありますが、世の中、時代の要求に合わせた組織の変化と発展がなくては寂れるだけです。教員構成の半分を一新し、新分野も加え、研究内容をより充実させた新・環境工学科の中で、これまで培ってきた教育・研究成果も、着実に、新しく生まれ変わって伸びていってくれるものと期待しています。

変化の多い40年間ではありましたが、私自身は教育・研究に携わる中で学生さん達とともにいつも楽しく過ごすことができ、とても幸せでした。充実した年月に感謝しています。ありがとうございました。

大学ニュース

○役職教員

●工学部長	川越 誠 教授
●短期大学部長	楠井 隆史 教授
●学生部長	野村 俊 教授
●副学生部長	松本 三千人 教授
●工学部 教養教育主任教授	原口 志津子 教授
機械システム工学科主任教授	春山 義夫 教授
知能デザイン工学科主任教授	大島 徹 教授
情報システム工学科主任教授	松田 弘成 教授
生物工学科主任教授	中島 範行 教授
環境工学科主任教授	川上 智規 教授
●短期大学部 環境システム工学科主任教授	川上 智規 教授

○昇任

●工学部 教養教育	石森 勇次 教授
環境工学科	高橋 剛一郎 教授
知能デザイン工学科	小柳 健一 准教授
生物工学科	米田 英伸 准教授
生物工学科	尾仲 宏康 准教授
生物工学科	荻田 信二郎 准教授

○新規採用

●工学部 機械システム工学科	竹井 敏 准教授
環境工学科	坂本 正樹 講師
環境工学科	大西 曜生 講師(10月1日付)

○退職

平成22年3月31日をもって定年退職されました。
長い間お疲れ様でした。

松岡 信一 先生

平成2年4月～平成9年3月 工学部 助教授
平成9年4月～平成22年3月 工学部 教授
平成17年4月～平成19年3月 地域連携センター所長

安田 郁子 先生

昭和45年4月～昭和49年12月 富山県立大谷技術短期大学 助手
昭和50年1月～昭和53年3月 富山県立技術短期大学 講師
昭和53年4月～平成2年3月 富山県立技術短期大学 助教授
平成2年4月～平成22年3月 短期大学部 教授
平成18年4月～平成22年3月 短期大学部長
平成21年4月～平成22年3月 工学部 教授

○移動

平成22年3月31日をもって他大学等へ移られました。
長い間ありがとうございました。

平井 敏郎 先生

平成18年10月～平成22年3月 工学部 教授
平成22年4月～ 京都大学

大利 徹 先生

平成6年4月～平成7年9月 工学部 助手
平成7年10月～平成19年3月 工学部 助教授
平成19年4月～平成22年3月 工学部 准教授
(学校教育法改正による職名変更)
平成22年4月～ 北海道大学

落合 友四郎 先生

平成18年4月～平成22年3月 工学部 講師
平成22年4月～ 大妻女子大学

私の好きなもの

原口 志津子(はらぐち しづこ)

工学部 教養教育 主任教授

①歌：学生時代、合唱団京都エコーという団体に所属して、合唱をやっていました。私がいた頃は、全日本合唱コンクール金賞一位しかとったことがないという団体です。富山に赴任して合唱はやめましたが、五十の手習いで声楽のレッスンを始めました。

②本：原っぱで遊んだり、川で泳いだりするのに忙しくて、小学校に入るまで字が読めませんでした。読めるようになって、こんなに面白いものはないと思ったのが本。研究者になって、本を読むことを仕事にでき幸せです。

③植物：田んぼ、すくすく育った大きな樹木(県立大前並木のケヤキとか)や好き勝手に生えている草花が大好きです。富山はその点すばらしいです。アパートの地面を掘り返して球根を植えたり、花を剪ったり、買ったりして自己流にいけるのも好きです。

《近況報告》

2010年4月、教養教育の主任になりました。また、長女が大学に進学しました。慣れぬ生活にあたふたする娘の姿を見て、新入生であることの大変さがより一層わかるようになりました。スムーズに大学生活に溶け込めるようにするために導入教育を担う教養教育は責任重大であると感じています。

小西 久美(こにしきみ)

技術短大応用数学科 1978年卒業

①ラーメン：「8番ラーメン」の味噌野菜ラーメン、「大喜」のキクラゲ入り濃い味ラーメン、「中町」の味玉入り濃い味ラーメン。この私の性格とは正反対のこってり系ラーメンを1週間に一度は食べないと禁断症状が出る私。血糖値も気力も落ちて、女っぷりさえも限りなく落ちていく。仕事の後の一杯はうまいっ！やめられないねーっ！ええもちろん一人でお店に入りますわよ。

②お一人様：ざわついた現実から逃れる術は、「お一人様」。ああ一人って素敵！ショッピングもドライブも、どんな顔をしていても、それは私の自由。数少ない休日は、しばしば一人者に変身～！何ものにも束縛されない。私が私になれる時間と空間が、ひそやかに静かにやってくる・・・・。

③薄暮：冷静を装いながら 焦燥にひきずられていくように アクセルを踏む 目の前の景色は動き出し 流れるように 飛んでいく むりぬけていった夢のかけらも もうふり返ることのない 記憶の残像 それもいつしか ゆらめく薄暮に とけ出していく 今をひた走るこの先に まだ見たこともない未来があると信じて やがて来る暗闇より速く 走り続ける 薄暮の中を 陽炎のように

《近況報告》

休みたい。眠りたい。が、4～5時間で目が醒める。今、何が流行ってる？今、おもしろいテレビ番組は何？友達と最後にランチしたのはいつだった？6時半に家を出て9時半に家に帰る生活を余儀なくされている。小学校臨任講師の私。ギャングエイジに囲まれて過ごす毎日は、泣き笑いの連続。

平成22年度 同窓会総会のお知らせ

○日 時

平成22年11月20日(土)

総 会：16時30分から

講 演 会：17時から

懇 親 会：18時頃から

県立大学は
今年で
20周年!!

○会 場

ボルファートとやま

(富山市奥田新町8-1 / TEL. 076-431-1113)

○記念講演会

講師：奥田 実 先生

講義：「オトナの社会学」

○懇親会参加費

男性：5,000円

女性：4,000円

(当日会場にて納入してください。)



**この“祭”，集まろう !!
技短×県大 全員集合！
あなたのご参加をお待ちしております。**

○連絡先

携帯からのお問合せはこちら→

富山県立大学同窓会事務局 山口

〒939-0398 富山県射水市黒河5180

TEL. 0766-56-7500 (内線130)

FAX. 0766-56-0396

メール. senpyokai@pu-toyama.ac.jp

URL. http://senpyokai.pu-toyama.ac.jp/dsk/homepage1.html



尚、懇親会には酒類をご用意しております。飲酒運転となりますので、お車でのご来場はご遠慮ください。準備の都合もありますので、出席される方は11月10日頃までに上記へご連絡ください。

ゴルフコンペ開催のご案内

今年は同窓会として足立原先生（元技術短大教授）のアルビレオ杯を引き継ぎましたので、下記要項でゴルフコンペを開催いたします。

ゴルフ好きの皆様のご参加お待ちしております。

○開催日：平成22年11月21日(日)

○場所：高岡カントリークラブ

○スタート：午前7時16分

○参加費：6,000円

※プレー代(12,000円)は各自でお願いいたします。

※参加申し込みは予約の都合もありますので、10月末日までにお願いいたします。



千瓢



♣江尻 康浩（大・機械 2007 年卒）

毎回楽しく拝読しております。今回の「千瓢」第 4 号に掲載されていた田中學長の巻頭言、非常に興味深く読ませて頂きました。連日報道で伝えられている通り、昨今の世界経済はまさに「100 年に 1 度」の不況と呼ぶに相応しい状況にあると思います。県立大学には是非とも、この状況を打破するための「21 世紀のものづくり」の在り方を示し、広く社会に発信し、そして世界をリードする「ものづくり」に貢献できる人材を今後とも輩出し続けて頂きたいと願っております。県立大学の今後に大いに期待しております。

♥碓井 末咲（大・電子 1999 年卒）

2009 年 9 月 21 日号「AERA」で、県立大学の記事を読みました。学生の皆さんも頑張っているんだなあと思っている時に、ちょうど千瓢が届きました。開学 20 周年という事ですが、変わっていくこと、変わらないことがあります。千瓢を見るたびに昔を思い出します。

♣高瀬 智志（短・環境 2009 年卒）

同窓会日誌をなつかしく読ませて頂きました。

♥坂田 知詠子（技・応用数学 1985 年卒）

今年も「千瓢」の季節になりました。いつもなつかしく読ませて頂いています。今回会社で何人かの人に「千瓢」にのつていたねと話しかけられました。皆さんすみずみまで読んでいらっしゃるようです。なんだかうれしくなりましたのでお知らせします。

♥南 真知子（技・草農業 1973 年卒）

短大の 2 年間は暖冬でした。駅から学校まで歩いて通ったことがなつかしく思い出されます。(36~37 年前です。この頃から暖冬が始まったのですね。)

♥保坂 久子（技・衛生工学 1970 年卒）

今夏、剣岳・北アルプスを縦走して自然の恩恵を感じながら故郷の富山県での青春時代を過ごした日々に感謝しました。今後とも自然と人間との環境工学科の発展に卒業生として望みます。

♣早川 俊一（技・草農業 1965 年卒）

千瓢の題字は見事です。私もこのような編集物の題字は瓜生靖亭先生や書家の方に頼んで作成しました。44 年勤めた市役所を退職して農業と趣味の書画鑑賞で過ごしています。佐野海邨

先生に習った水墨画で大作は描けませんが、絵手紙ぐらいに生かしたいと思っています。浦野さんは長年青柳先生について書道をされ、この度は大作を寄贈され、お忙しい中継続されたことに敬意を持ちます。平成 9 年度勤務先の改善センターで青柳一門の方はよく練習されていたことを思い出しました。益々のご活躍を期待しています。

♣山本 憲司（技・機械 1964 年卒）

ご苦労様です。(中略) 県立大が何をテーマとしどんな哲学をもって発起されたか常に原点を探り失わないで欲しい。伝統校の存在が何を保っているかを意識し立派な学校像を造り上げて欲しいものだ。学問だけでは起こせない自然の節理即ち「時の力」初代からの先輩先生の思いを尊敬し、しっかりした学校にして下さい。今はとても良い風が吹いています。先生も生徒も立派な活動をして居ると感じます。先輩として静かに感謝しています。学問だけではない人々を紹介: 豊田佐吉・松下幸之助(小四で中退)・本田宗一郎・吉田忠雄・浅野総一郎・安田善次郎・黒田善太郎そして何より県立大の創設寄贈の大谷米太郎 etc

◆匾名

毎号楽しく拝読させて頂いています。今年度は姪が受験の年。県立大学の受験を考えているところで研究室の様子が掲載されている「千瓢」を利用して頂きました。(それによって彼女の気持ちがどう動いたかはわかりませんが。) ありがとうございました。これからも楽しみにさせて頂きたいと思います。



(広告掲載企業一覧)

朝日コンサルタンツ、岡本清右衛門商店、雄川、北建コンサル、建成コンサルタント、上智、新日本コンサルタント、水機工業、富山県農業協同組合中央会、日水コン、山本理化

編 集 後 記

▼今年は富山県立大学開学 20 周年の記念の年です。20 人の同窓生からの意見を聞く特集はどうでしたか。多くの方に原稿をお願いしたのですが、今日(10 月 13 日)現在、到着したのは 18 通(写真参加を含む)です。タイトルに偽りがありますが、締め切り以降に着いた原稿は次号に掲載いたします。

▼開学 20 周年を記念して「富山県立大学二十年史」が



発刊された。10 年前に出された「富山県立大学十年史」についての発刊で、サブタイトルに「2000.4 から 2010.3 を中心に」とあるように、最近の 10 年間の大学の動きが載っている。編集委員には当会の池上が参加している。題字は富山県立大谷技術短期大学一期生の書道家の浦野泰子さんが担当している。

▼元教授の島谷信先生が亡くなられた。去年の同窓会でお元気な姿を拝見していましたので、驚きました。ご冥福をお祈りします。

▼住所不明会員が増えています。もし御存知の方があればメール等でお知らせ下さい。

▼今号の発行が大変遅れたことをお詫びします。すべて編集子の責任です。次号は遅れずにお手元にお届けします。

(池上 効)

